

国際連合地域開発センター・公益財団法人中部圏社会経済研究所共催

SDGsセミナー「コロナ禍におけるビジネスチャンスとしてのSDGs」

2020年12月3日（木）14：00～16：30

## 国際連合地域開発センターのSDGs推進の取り組み

国際連合地域開発センター所長 遠藤和重

# 1. 国際連合地域開発センター（UNCRD） について

# 国際連合地域開発センター（UNCRD）について

## 【設立の概要】

- 開発途上国の「地域開発」を通じて開発に貢献するために調査・研究を行う組織として、国連と日本政府との協定により1971年に愛知県名古屋市に設立
- 名古屋市に設立された背景としては、地元の官民一致の積極的な誘致活動や協力体制が大きな役割を果たしたほか、名古屋を中心とする中部圏が自動車、繊維、窯業などに代表される日本の主力工業地帯であるとともに、野菜や花の栽培、畜産などに優れた農業地帯であり、バランスのとれた地域開発が実施されており、開発途上国の研修生に日本の経済発展の経験を学んでもらうのに最適の場所であると国連に認められたため

## 【活動】

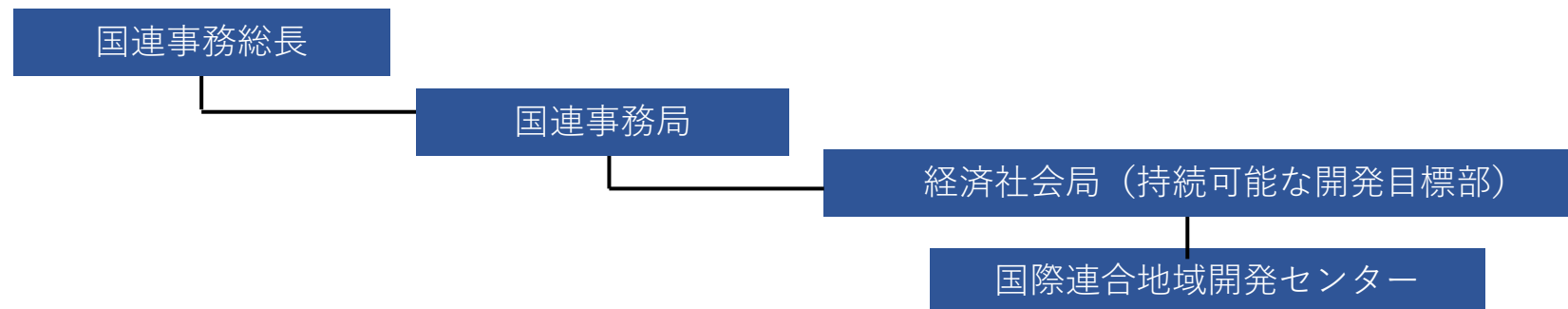
研修： 開発途上国の行政官を対象に地域開発に関する研修を行う

調査研究： 地域開発をめぐる諸問題をテーマに、研修教材開発も兼ねた調査研究を行う

助言： 地域開発に携わる政府機関、NGO、大学の要請に基づき各種助言を行う

ネットワークの確立： 地域開発に関する出版物の発行などにより情報交流のネットワークを確立する

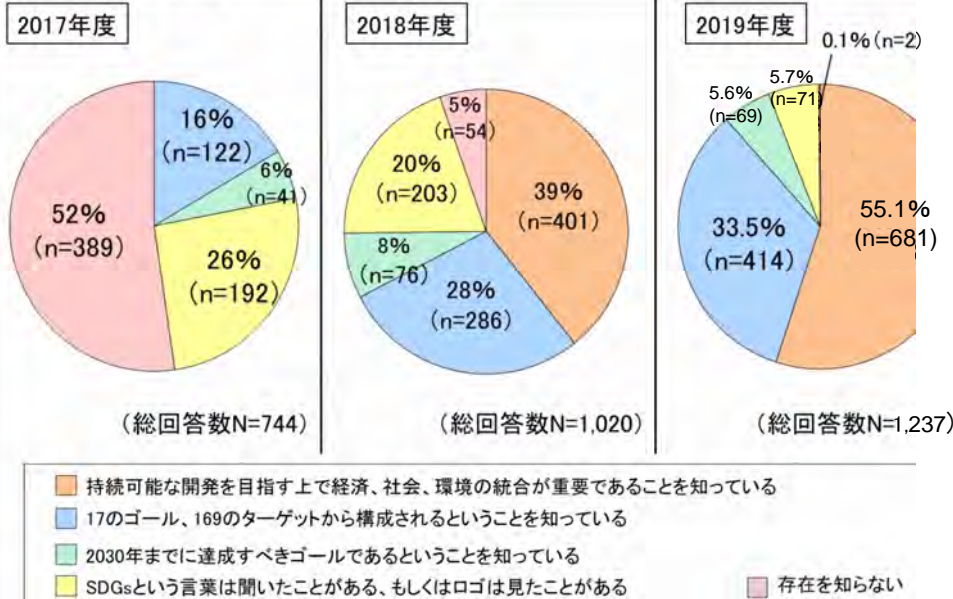
## 【国連内での位置づけ】



## 2. 自治体のSDGs経営に向けた モニタリングツール開発

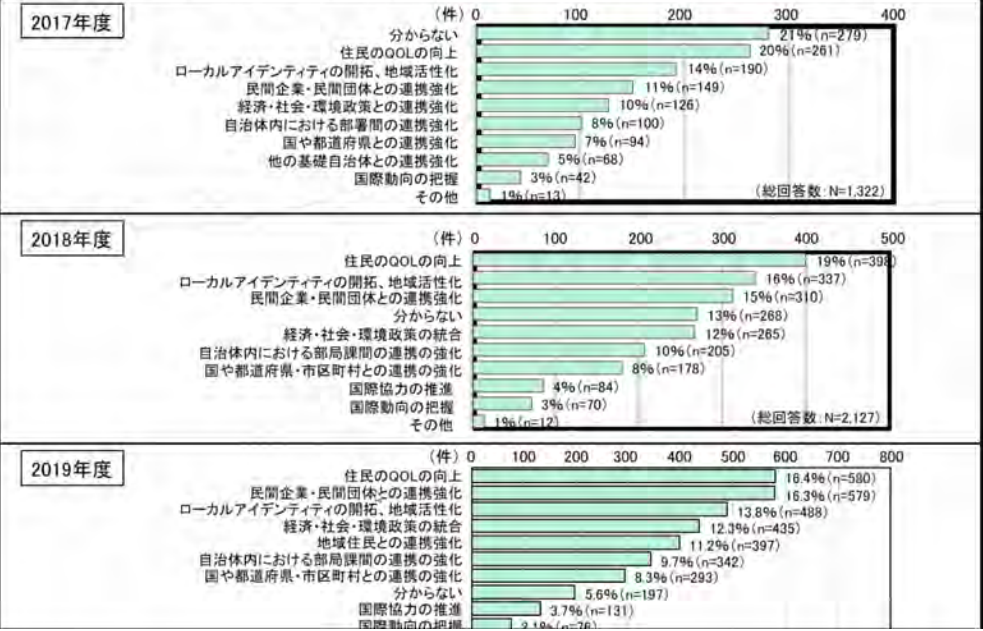
# 日本における地域SDGsの評価・モニタリングツールへのニーズ

## 自治体におけるSDGsの認知度

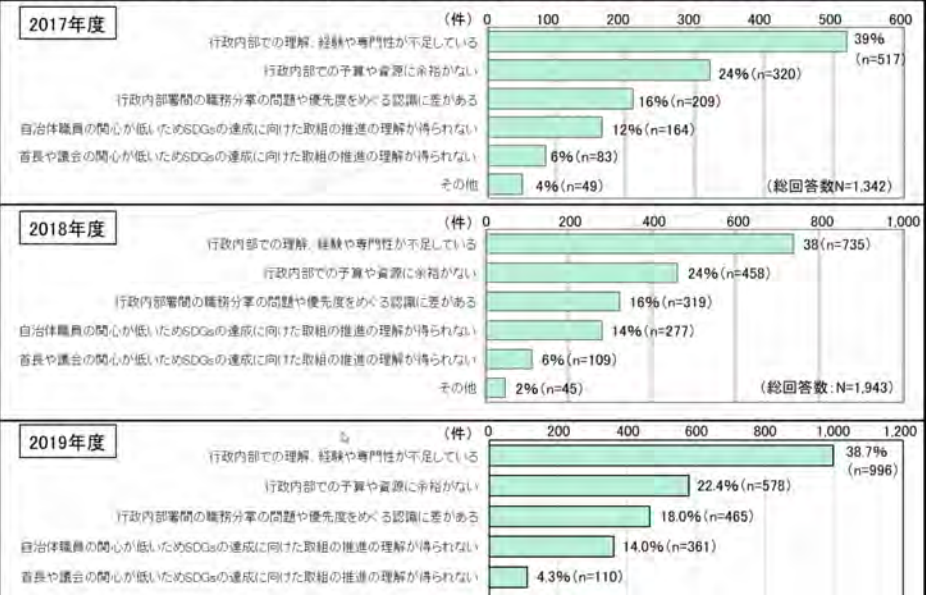


出典: 川久保 村上 中経 日本全国の自治体における持続可能な開発目標(SDGs)の取組に関する実態把握 日本建築学会技

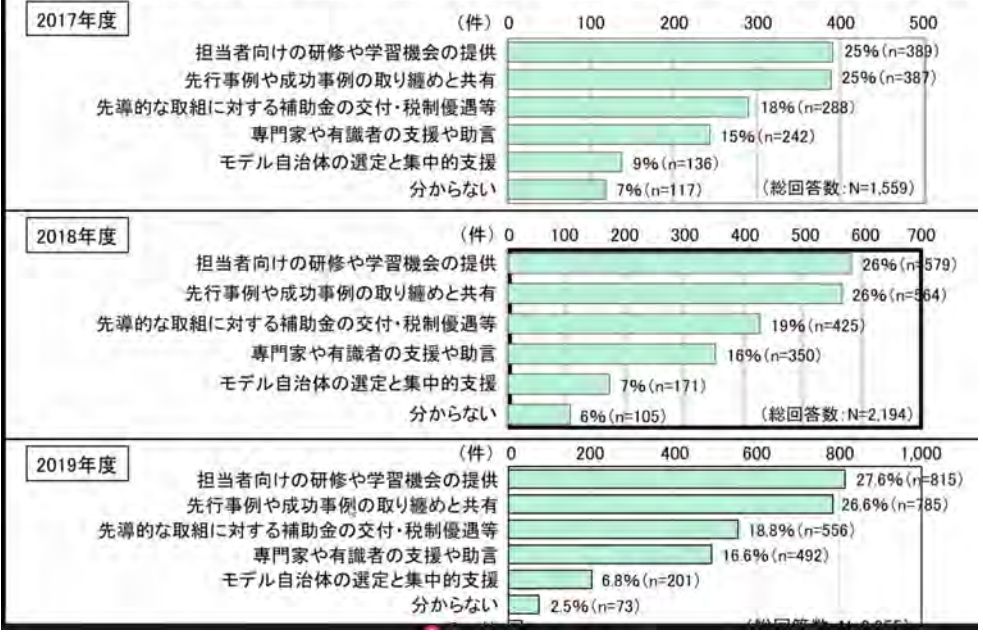
## 自治体におけるSDGs達成に向けた取組推進の意義とメリット



## 自治体におけるSDGs達成に向けた取組の推進の際の課題



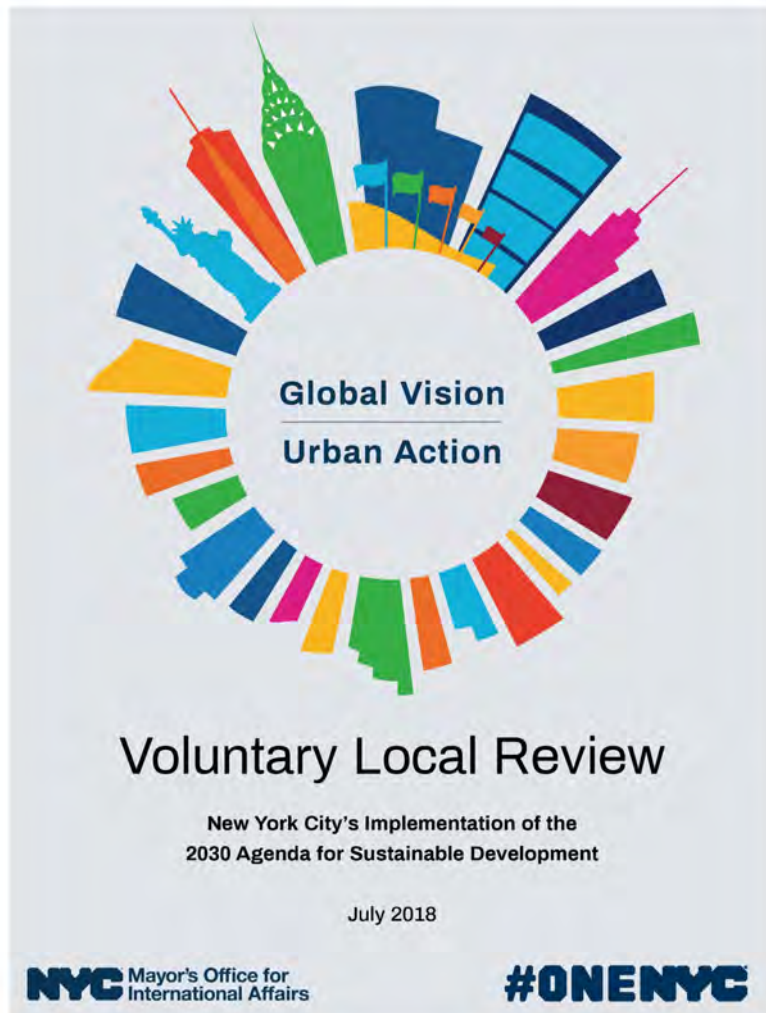
## 自治体が求めるSDGs達成に向けた取組の推進の際の支援事項



# 地域のSDGsの評価・モニタリングの世界的な流れ

## 計画から実装、モニタリング段階へ

- 世界的な流れとして、地域でのSDGs達成の動きへの関心は「計画」だけでなく、その「実行」と、「評価・モニタリング」に移りつつある
- 地域レベルでは各都市で毎年進捗状況を報告するVoluntary Local Reviewの動きが生まれているほか、各地域のSDGs達成状況や取り組み状況を評価する指標の開発も進んでいるほか、企業の取り組みも積極的に進みつつある



# ボランティア・ローカル・レビュー（Voluntary Local Review）

- ボランティア・ローカル・レビューとは、自治体が自発的にSDGsの実施状況をレビューし、その結果をレポートとして発表・公開する取り組み。世界で約40の自治体を実施。
- 2020年2月8日～13日までアラブ首長国連邦のアブダビ市で開催された第10回世界都市フォーラム（WUF）のスペシャルセッション「ボランティア・ローカル・レビュー（VLR）」に登壇、日本の自治体の取り組みを紹介しつつ、モニタリングの重要性について発表
- 中部圏の自治体による地域の課題や取組状況を把握するための情報収集やその評価、それをわかりやすく伝える情報発信を支援するため「自治体のSDGs経営に向けたモニタリングツール共同開発プロジェクト」を立ち上げ、本格的に活動を開始。

パートナー：名古屋市、豊田市

凸版印刷株式会社、ESRIジャパン株式会社、大日本コンサルタント株式会社

- 2020年7月にはキックオフイベントとして公開研究会を開催



第10回世界都市フォーラムでの発表の様子



凸版印刷(株)DX-GATEより公開研究会の様子を配信

# 自治体のSDGs経営に向けたモニタリングパッケージの検討内容

## データ収集から情報発信までの一貫したパッケージ

- 「評価・モニタリング」にはデータ収集からそれを整理・評価し、情報発信するためのデザインを作りこむまでの労力が大きいことが課題
- 一連の取り組みをパッケージとして提供しスムーズに実施できる仕組みを開発

## 国際標準に合わせながらカスタマイズ可能な仕様設計

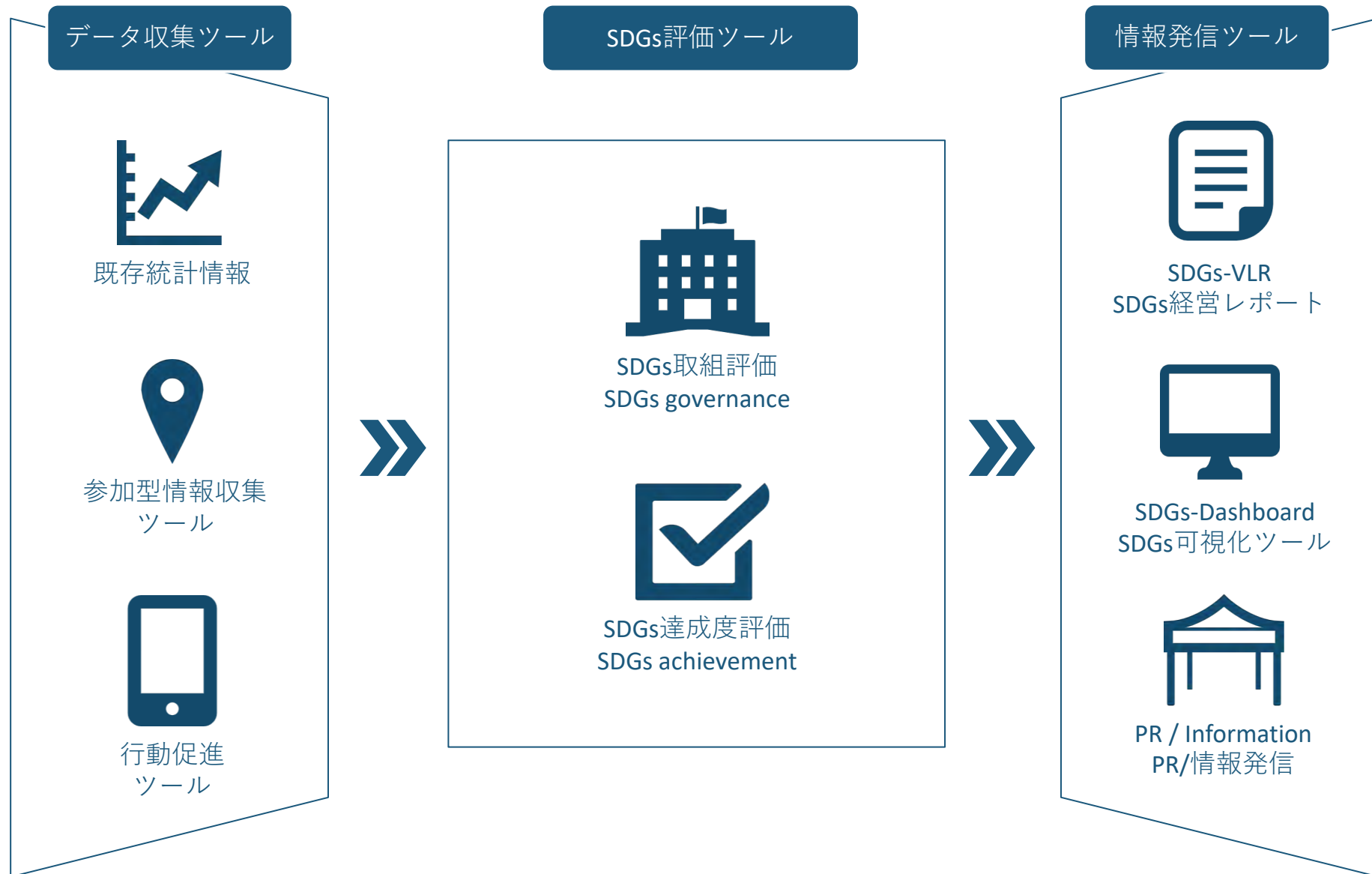
- 国際的に認められた手続きや指標の活用により、自分たちの自治体・地域が国内・世界でどのような位置づけにあるかを確認・検証することを可能に
- 各地域独自で進めている取り組みや重要性を評価・情報発信に盛り込むことも可能に

## ステークホルダーを巻き込みながらSDGs達成を目指す仕掛け

- データ収集やモニタリングは、直接的に取り組み推進につながらないことが課題
- 参加型／行動促進型のデータ収集ツール活用により取り組みとデータ収集をセットに



# SDGs経営に向けたモニタリングパッケージの全体構成



## SDGs評価ツール（1） SDGs取組評価（Governance）

- SDGsに取り組むにあたって必要な4つのステップを設定
- 各ステップにおいて、ベンチマークとなる指標を抽出・整理し、取り組みや努力の評価を行うとともに、改善すべき点を抽出できる仕組みを開発
- 全ての自治体でデータが収集できるように、各種計画や議会議事録などから評価できる定量的な指標を設定

### 取り組み体制

- 首長の先導
- 担当部署と人員
- 産学官連携
- 政治の関心度

### 目標設定

- 取り組み方針
- 既存計画反映
- 数値目標設定
- 包摂性の視点

### モニタリング

- データ収集
- 認証制度参画
- 市民情報発信
- 国内外への情報発信

### パートナーシップ

- 市民の理解
- 企業との連携
- 他地域との連携
- 国際的な連携

# ガバナンス評価指標（案）

	小分類	指標	定義
取り組み体制	首長のリーダーシップ	ステートメントでのSDGsへの言及回数	首長の所信表明、施政方針、記者会見でのSDGsへの言及回数
	専任部署及び人員	SDGs専任部署の設置有無及び人員数	SDGs担当部署の有無（人員数）
	産官学民の連携	SDGsに関する連携のためのプラットフォームやコンソーシアム数	SDGs達成に向けて構成される産学官民が連携するプラットフォームやコンソーシアム数
	地方政治における関心度	SDGsに関する議会質問数	定例会及び臨時会でのSDGsに関する議会質問数
目標設定	SDGsへの取り組み方針・計画	基本方針・計画の有無及び取り組むゴール数	SDGs達成に向けた取り組み方針を記載した計画の有無及び計画における優先的ゴールの数
	既存計画におけるSDGsへの位置づけ	総合計画へのSDGsの反映の有無	総合計画における取り組みとSDGsとの関連性の記載の有無
	SDGsに関連する数値目標の設定	SDGsの各ゴールに対応したアウトカム指標数	SDGs未来都市計画または総合計画におけるSDGsに対応したKPIの設定数
	誰一人取り残さない	脆弱層への対応に対する議会質問数	定例会及び臨時会での子ども、高齢者、女性、ジェンダー、障害者、貧困層、外国人への対応に対する議会質問数
モニタリング	SDGs指標のデータ収集	オープンデータの提供件数	オープンデータ提供ファイル数
	外部の認証・評価への参画	外部の認証・評価への参画件数	役所におけるISO認証（ISO9001、ISO14001）やJISマーク認証等の数
	市民への情報発信	市民向けセミナー等の開催件数と参加者数	SDGsに関連したセミナーやイベントの開催件数と参加者数 ※主催または共催に限る
	国内外への情報発信	SDGsに関する報道発表数	自治体HPの報道発表に掲載されたSDGsの取り組み状況や関連するイベント等に関する報道発表数
パートナーシップ	市民の理解と浸透	市民のSDGsに関する理解度	「持続可能な開発目標（SDGs）」という言葉を知っているという回答した市民の割合
	企業とのパートナーシップ	SDGsに関する企業パートナーシップ件数	SDGsに関する企業パートナーシップ件数
	大学・活動団体とのパートナーシップ	SDGsに関する連携を行う団体・組織の数	SDGsに関する連携を行う団体・組織の数
	国際的なパートナーシップ	SDGsに関する連携を行う国外の団体・組織の数	SDGsに関する連携を行う国外の団体・組織の数

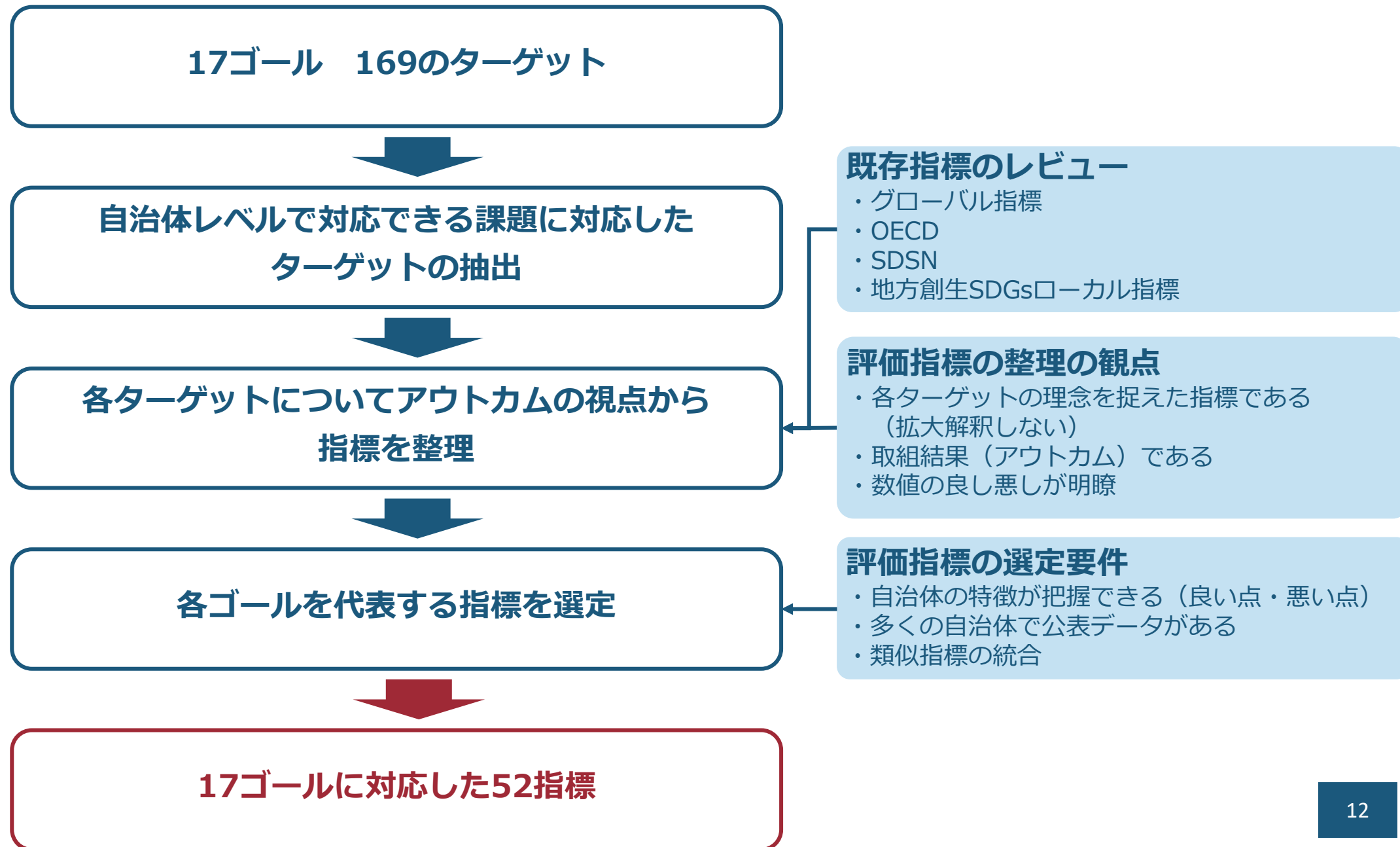
# 名古屋市・豊田市を対象としたケーススタディ

途中経過（参考値）であり 最終結果ではありません。

	小分類	指標	名古屋市	豊田市	データ出典
取り組み体制	首長のリーダーシップ	ステートメントでのSDGsへの言及回数	所信表明：- 施政方針：- 記者会見：2/32	所信表明：- 施政方針：1 記者会見：3/10	市HP：市政情報
	専任部署及び人員	SDGs専任部署の設置有無及び人員数	あり (人数： )	あり (人数： )	SDGs未来都市計画：行政体内部の執行体制
	産官学民の連携	SDGsに関する連携のためのプラットフォームやコンソーシアム数	8	6	SDGs未来都市計画：ステークホルダーとの連携
	地方政治における関心度	SDGsに関する議会質問数	R1：11 H31：10 H30：3 H29：2	R1：11 H31：14 H30：7 H29：4	市議会会議録
目標設定	SDGsへの取り組み方針・計画	基本方針・計画の有無及び取り組むゴール数	計画：あり ゴール数：7	計画：あり ゴール数：10	SDGs未来都市計画：2030年のあるべき姿に向けた優先的ゴール
	既存計画におけるSDGsへの位置づけ	総合計画へのSDGsの反映の有無	あり	あり	総合計画
	SDGsに関連する数値目標の設定	SDGsの各ゴールに対応したアウトカム指標数	SDGs計画：36 (総合計画： )	SDGs計画：23 (総合計画： )	SDGs未来都市計画：2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的ゴール、ターゲット
	誰一人取り残さない	脆弱層への対応に対する議会質問数	確認中	確認中	市議会会議録
モニタリング	SDGs指標のデータ収集	オープンデータの提供件数	849	3,395	市HP
	外部の認証・評価への参画	外部の認証・評価への参画件数	0	0	(公財)日本適合性認定協会
	市民への情報発信	市民向けセミナー等の開催件数と参加者数	7 (参加者数： )	14 (参加者数： )	市HP
	国内外への情報発信	SDGsに関する報道発表数	3 (R1年度)	5 (R1年度)	市HP：報道発表資料
パートナーシップ	市民の理解と浸透	市民のSDGsに関する理解度	7.9% (R1.10調査)	30.5% (R2.1調査)	市民アンケート：認知度調査結果
	企業とのパートナーシップ	SDGsに関する企業パートナーシップ件数	23	102	SDGs未来都市計画：ステークホルダーとの連携、市HPなど追加収集
	大学・活動団体とのパートナーシップ	SDGsに関する連携を行う団体・組織の数	9	45	SDGs未来都市計画：ステークホルダーとの連携、市HPなど追加収集
	国際的なパートナーシップ	SDGsに関する連携を行う国外の団体・組織・姉妹都市の数	団体組織：8 姉妹都市：6	団体組織：5 姉妹都市：4	SDGs未来都市計画：ステークホルダーとの連携 海外の主体 市HP：姉妹都市

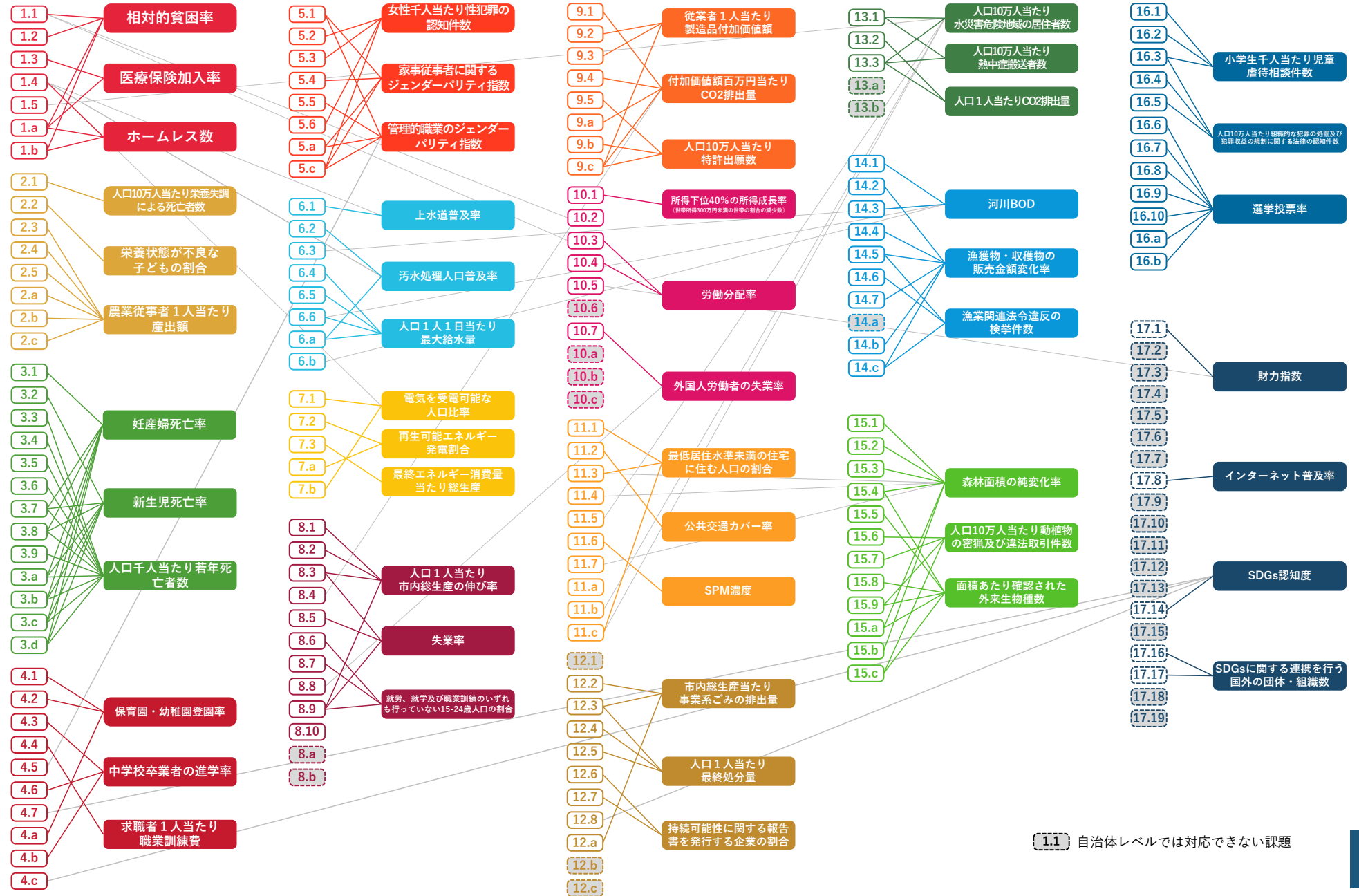
## SDGs評価ツール（2）地域の達成度評価（Outcome）

### ① 評価指標の選定プロセス



# SDGs評価ツール（2）地域の達成度評価（Outcome）

## ②指標（案）の選定

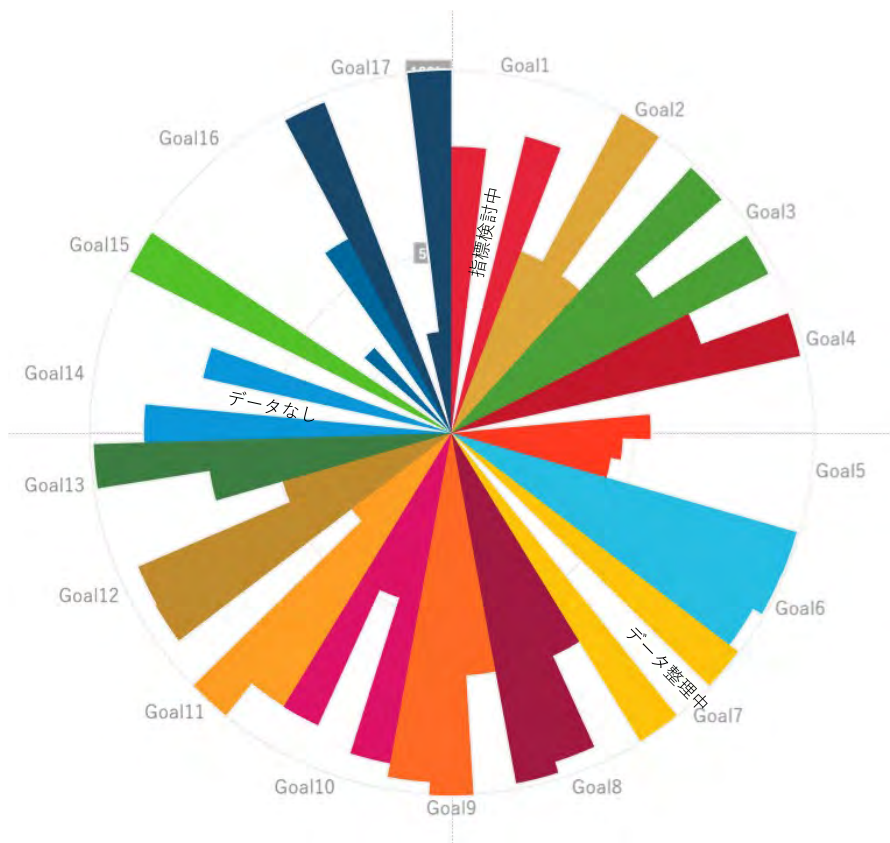


# 名古屋市・豊田市を対象としたケーススタディ

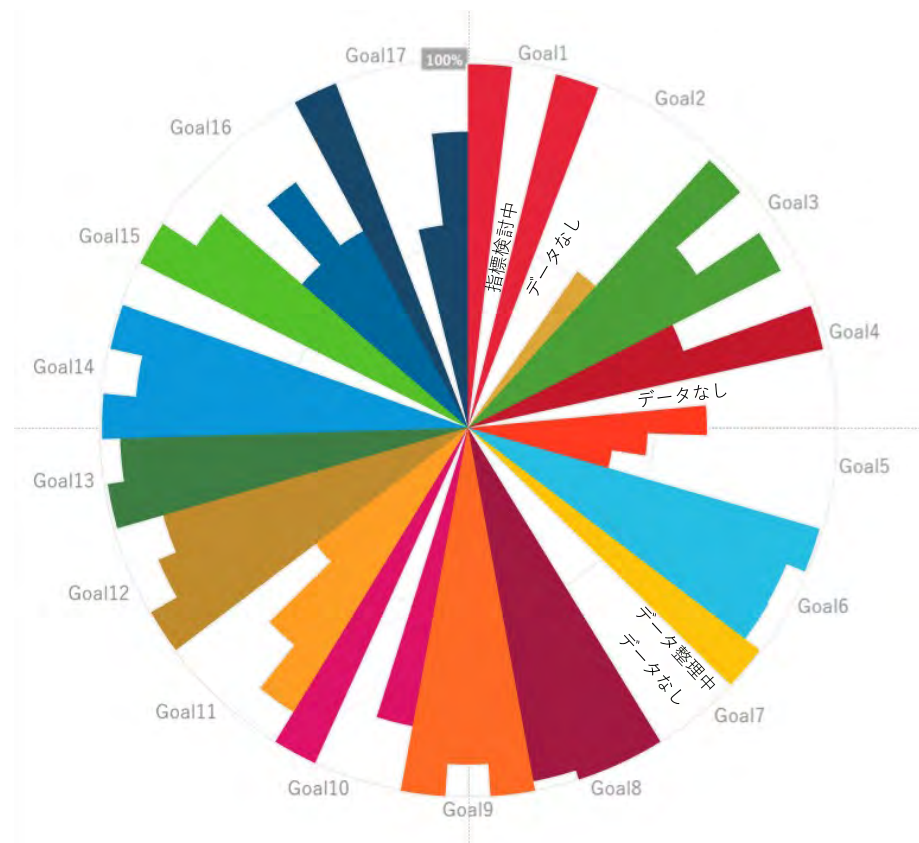
途中経過（参考値）であり 最終結果ではありません。

- 名古屋市は上下水道や公共交通などのサービスが整っている一方、居住水準や所得の格差が大きく失業率も高い
- 豊田市は産業や雇用、生産消費形態の面で牽引する一方、都市部と中山間地部における基礎的サービスの差が生まれている
- いずれもジェンダー平等が低い

## 名古屋市



## 豊田市



# 国連SDGs加速化のアクション(SDG Acceleration Actions)に選定・登録



「SDGs加速化のアクション（SDG Acceleration Actions）」は、2030アジェンダの実施を加速化させるため、各国やその他のステークホルダーが自発的に行う取り組みです。

国連経済社会局（DESA）による審査を経て、「中部圏におけるSDGローカルアクションのためのモニタリング・評価ツールの開発」も選定・登録されました。現在専用のポータルサイトで公表されています。

## Development of Monitoring and Evaluation Tools for SDG Local Actions in Chubu, Japan

Outputs and Expected Impact: The results of monitoring and evaluation will not only be compiled in a report for reviewing on the annual basis but also be visualized online, for example in a form of dashboard, that can be viewed and referred by various stakeholders, including the private sector, academia and citizens. Also as project outputs, case studies using these tools will be conducted in two selected municipalities of Nagoya and Toyota Cities to demonstrate the usefulness of the tool package, and then it would also be utilized to support other LRGs in Japan and other countries in their efforts to achieve the SDGs. The developed package would enable LRGs to evaluate and visualize the outputs and outcomes of their activities and projects towards the SDGs and provide feedback for improvement for future actions. It is expected that more and more LRGs, which are interested in monitoring and evaluation of local SDG actions and/or voluntary local review (VLR), will use the tools to effectively promote their own initiatives and projects while learning peer-to-peer so that their actions towards SDGs would be further accelerated.

### Organization

United Nations Centre for Regional Development (UNCRD)





# 研究会の今後のスケジュールと目指すゴール

---

## スケジュール

2020年7月	公開研究会「地域で取り組むSDGs経営と効果的な情報発信」
2020年9月	ケーススタディ自治体に対応したツール開発開始
2021年2月	SDGs Aichi Expo 2020にてプロトタイプ <sup>o</sup> の報告とPR(予定)
2021年3月	研究成果のレポートを公表
2021年以降	ケーススタディ自治体／企業の拡大とPRの展開

## 目指すゴール

- 愛知県および中部圏における各地域のSDGsへの取り組みを国際的に発信
- 自治体・企業の継続的なSDGsへの取り組み支援
- SDGsをきっかけとした地域開発におけるオープンデータやデータ利活用の推進

## 3. 中部圏SDGs広域プラットフォーム

## 設立の目的

中部圏ひいては我が国におけるSDGs達成に向けた組織及び団体の取組を実施するとともに、世界各国とりわけ開発途上国における課題解決の支援などの国際貢献を行うこと

## 特 徴

SDGsの達成に対する課題解決に多大なる貢献が期待できる経験、技術、ノウハウといった中部圏の強みを生かす。構成の対象を中部圏に絞り、この地域のリソースを活用することで、地域に根差し、メンバー間のより強固な連携が可能となる。

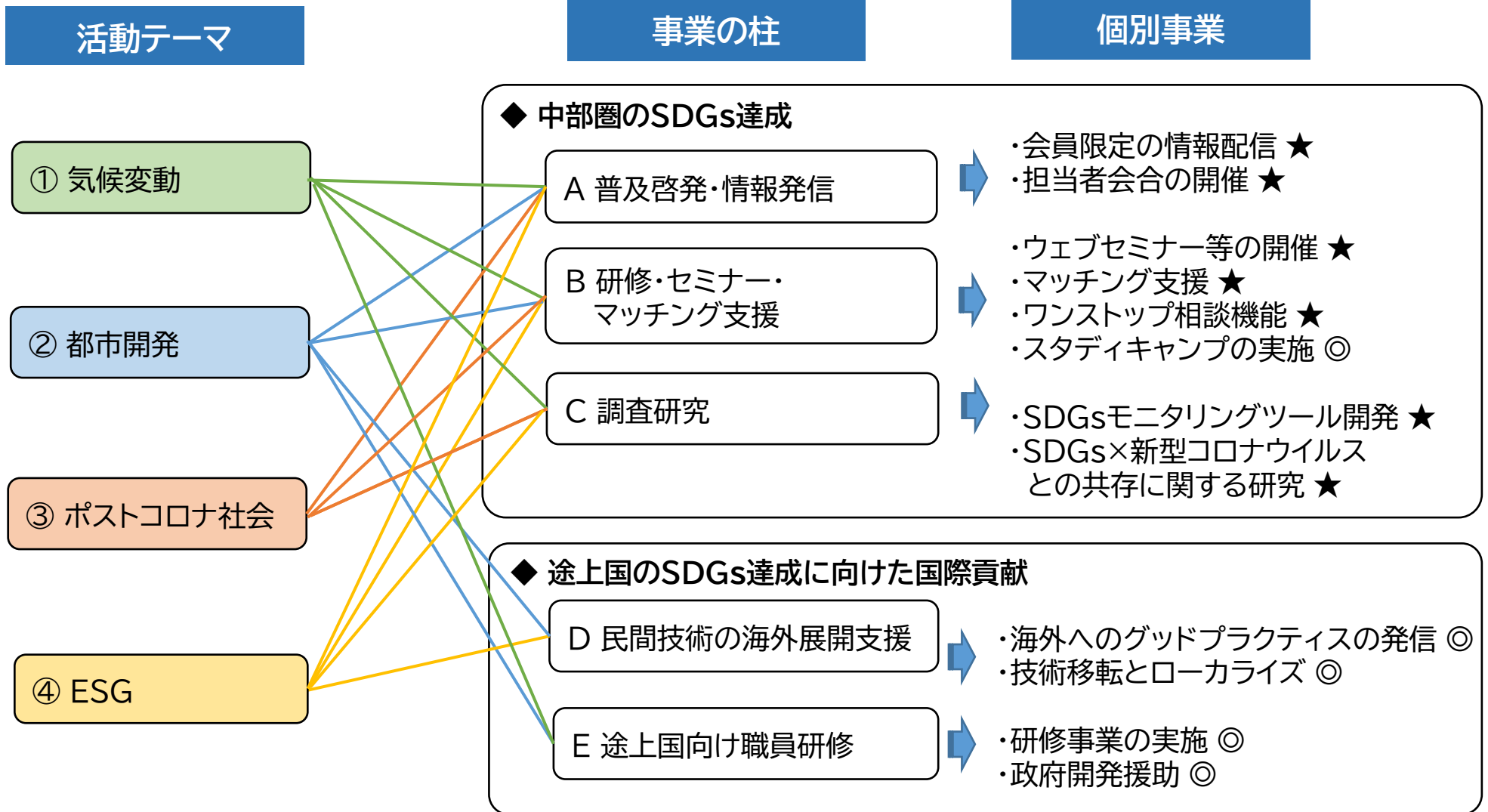
## 設 立

2020年12月1日

## 運営体制と会員

- ・ 正会員：中部ESD拠点 中部大学 理事長【会長】  
国際連合地域開発センター（UNCRD）所長【副会長】  
ローマクラブ日本 代表【副会長】  
一般社団法人中部SDGs推進センター 代表理事【副会長】
- ・ 利用会員：中部圏の自治体、企業、大学、NPO、NGOなど多様なステークホルダー
- ・ その他：賛助会員、パートナー

## 活動のテーマと主要事業



★ 2020年度から活動を開始する事業

◎ 2021年度以降に実施、又は実施を検討する事業